

令和 7 年11月1日

組合員・利用者本位の業務運営に関する取組状況および K P I 実績値の公表について

- 当組合は、名古屋市緑区を事業区域として農業者を中心とした地域住民の方々が組合員となって、相互扶助（お互いに助け合い、お互いに発展していくこと）を共通の理念として「組合員・利用者本位の業務運営に関する取組方針」を公表するとともに、組合員・利用者の皆さまの安定的な資産形成と「ひと・いえ・くるまの総合保障」の提供を通じた豊かな生活づくりに貢献するための具体的な取組みを実践しており、今回その取組状況を公表いたします。
- また、上記とあわせ金融庁より各金融機関に対し公表が期待される「お客様本位の良質な金融商品・サービスを提供する金融事業者をお客さまが選ぶうえで比較することのできる統一的な指標」（「比較可能な共通 K P I 」）も同時に公表いたします。

（注）共済事業は、当組合と全国共済農業協同組合連合会（ J A 共済連）が、共同で事業運営しております。

緑信用農業協同組合

I. 取組状況

1 組合員・利用者への最良・最適な商品、共済仕組みサービスの提供

(1) 信用の事業活動

【原則2本文および(注)、原則3(注) 原則6本文および(注2、3、6、7) 補充原則1～5本文および(注)】

- ・ 特定の投資運用会社に偏ることなく、社会情勢、過去の運用実績、手数料の水準等を踏まえたうえで、一定の商品数に絞った J Aバンクセレクトファンドを提供し、組合員・利用者の皆さまの多様なニーズにお応えできるものを選定します。なお、当組合は、金融商品の組成に携わっておりません。
- ・ JAバンク全体では商品新規導入を行う際は、第三者評価機関からの意見を伺いながら、お客様のニーズに合った商品を取入れ、パフォーマンスが芳しくない場合は取扱いを行わない等、定期的な商品ラインアップの見直しを行っております。それにより以下のように商品数が増減いたします。
- ・ 組合員・利用者の皆さまに對面金融商品販売の際には、適合性チェックシートを活用して、適切に販売しております。
- ・ なお、組合員・利用者の皆さまの最善の利益の実現につながる取組として、2025年度以降、金融商品を組成する投資運用会社との情報連携を開始予定です。

<投資信託の取扱い商品ラインナップ(2025年3月末時点)>

カテゴリ	国内	海外
債券型	1	4
株式型	3	5
REIT型	1	2
バランス型	7	

※ 現在、新規でお申込みいただけないファンドも含まれておりますが、公社債投信は含んでおりません。

<商品選定の考え方>

当組合では、組合員・利用者の皆さまの最善の利益を図ることとし、皆さまに提供する金融商品は、特定の投資運用会社に偏ることなく、社会情勢、過去の運用実績、手数料の水準等を踏まえたうえで、一定の商品数に絞った J Aバンクセレクトファンドを提供し、組合員・利用者の皆さまの多様なニーズにお応えできるものを選定します。

⇒ コア・サテライト戦略について

保有する資産を「コア(中核)資産」と「サテライト(衛星)資産」に分けて運用する方法



I.取組状況

1 組合員・利用者への最良・最適な商品、共済仕組み・サービスの提供

(2) 共済仕組み・サービス

【原則2本文および(注)、原則3(注)、
原則6本文および(注2、3、6、7)、補充原則1～5本文および(注)】

- 当組合は「ひと・いえ・くるまの総合保障」の情報提供を通じて、最良・最適な共済仕組み・サービスを提供しております。
- 市場リスクを有する共済仕組みの提供は実施しておりません。
- 総合満足度は2025年3月末時点で97.1%となっており、高水準を維持しております。
- なお、共済事業については、全共連と共同で事業運営を実施しており、お客さまの声や実際に販売した顧客情報等について相互に連携しております。

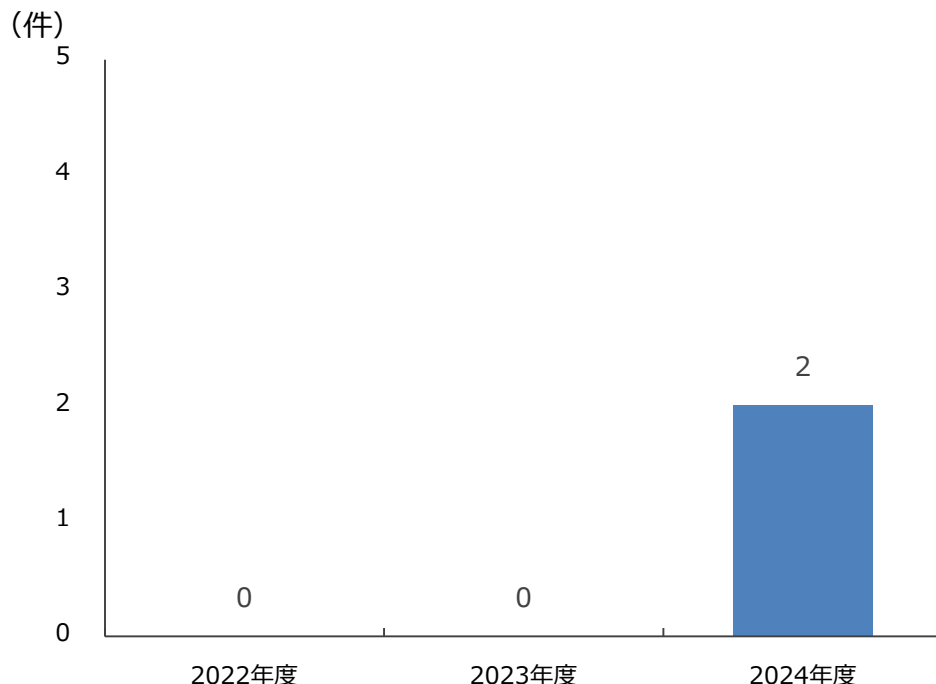
I.取組状況

2 組合員・利用者本位の提案と情報提供①

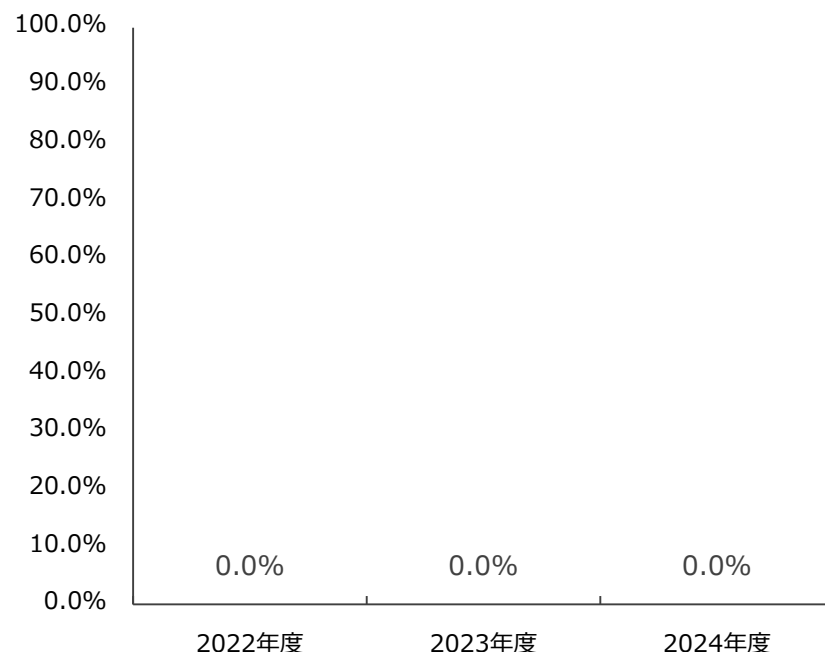
【原則 2 本文および（注）、原則 5 本文および（注 1 ～ 5）、
原則 6 本文および（注 1 ～ 7）】

- 組合員・利用者の皆様に安定的な運用成果をご享受いただくために、組合員・利用者の金融知識・経験・財産、ニーズや目的に合わせて適切な情報提供を行うとともに、組合員・利用者の皆さまのご意向を踏まえた上でライフプランサポートの一環として分散投資・長期投資の有用性をご提案した結果、「投信つみたて」を利用される組合員等が増加しました。「毎月分配型ファンド」をご選択される組合員等はありませんでした。

<投信つみたて契約件数の推移>



<購入額に占める毎月分配型ファンドの比率>



※2024年度取扱開始のため、2022・2023年度の実績はありません。

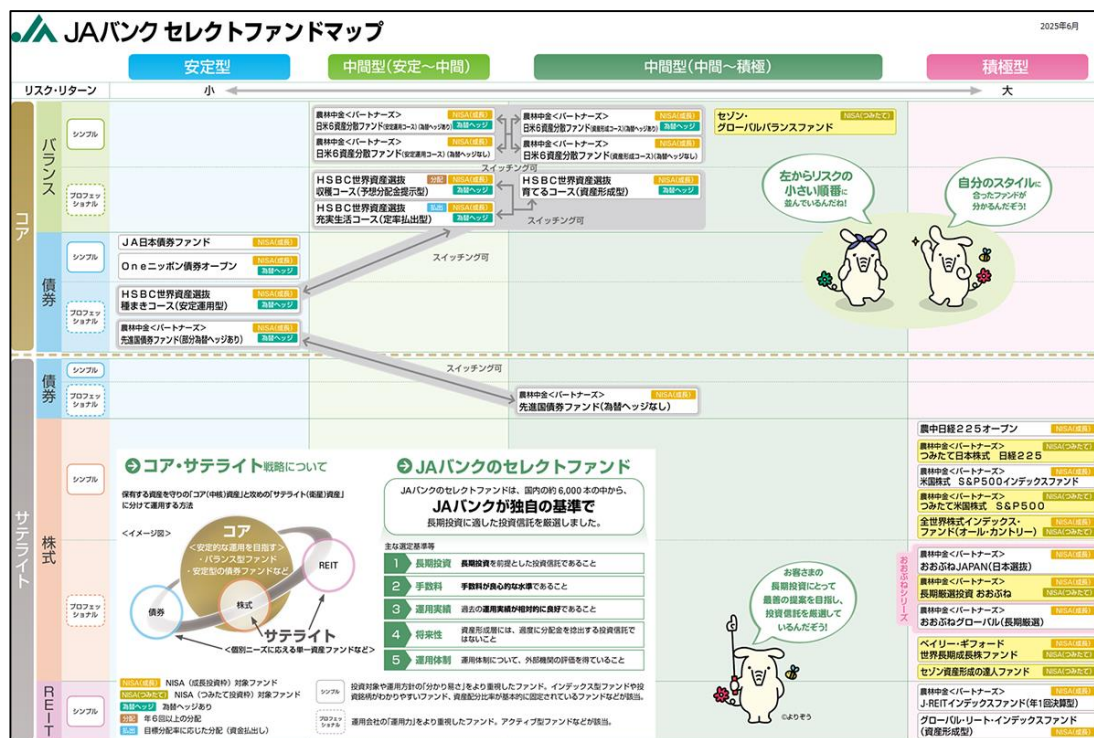
I. 取組状況

2 組合員利用者本位の提案と情報提供②

【原則4、原則5本文および（注1～5）、原則6本文および（注1～7）】

（1）信用の事業活動

- 組合員・利用者の皆さまの投資判断に資するよう、金融商品の損益や損失その他のリスク等のリスク特性・手数料等の重要な事項について重要情報シート等を用いて、また「JAバンクセレクトファンドマップ」等の商品間の比較を容易にすることができる資料を活用し、丁寧かつ分かりやすい説明・情報提供を実施しました。
- 組合員・利用者の皆さまにご負担いただく金融商品の手数料について、皆さまの投資判断に資するように、なお、2024年10月取扱開始当初から重要情報シートを導入しております。



I.取組状況

2 組合員・利用者本位の提案と情報提供③

【原則4、原則5本文および（注1～5）、原則6本文および（注1・2・4・5）】

（2）共済の事業活動

①共済仕組み・サービスのご提案

- ・ 組合員・利用者の皆さま一人ひとりのご意向に基づき、分かりやすいご説明を心がけることで、最良・最適な共済仕組み・サービスを提供しております。
- ・ ニーズに合致したと思われる共済仕組み・サービスについては重要事項説明（契約概要・注意喚起）を実施し、特にご確認いただきたい事項や不利益情報を分かりやすくご説明しております。

②情報提供

- ・ 一人ひとりの加入目的・ライフプラン等に応じた、最適な保障・サービスをご提案するため、情報提供を実施しております。
- ・ 情報提供にあたっては、チラシやリーフレットを活用し共済仕組みと各種公的保険制度等にかかる情報提供を行うことで、分かりやすい説明をしております。

③契約締結時の対応

- ・ ご提案した共済仕組み・サービスが組合員・利用者の皆さま一人ひとりのご意向に沿ったものであるか確認しております。また十分に保障内容をご理解・ご納得いただけるよう、分かりやすい重要事項説明（契約概要・注意喚起事項）を実施しております。

④高齢者対応

- ・ ご高齢の組合員・利用者の方については、ご家族も含め十分ご納得、ご満足いただけるよう、提案説明時、契約締結時にはご家族の同席等を徹底し、よりきめ細やかな対応を行っております。
- ・ 高齢者対応における親族等の同席の割合は、2024年度69.1%となりました。
- ・ なお2025年度から新たに「共済契約のお手続きに関するご案内」をお渡しし、ご契約者さま・被共済者さまだけでなく、ご家族の方にもご安心いただけるよう努めております。

⑤各種手続きとアフターフォローの実施

- ・ 各種手続きの実施にあたっては、組合員・利用者の皆さまに分かりやすくご説明しております。
- ・ ご加入後も、情報提供活動を通じて共済金等の請求勧奨や適切な保障が提供できていることの確認を通じて、組合員・利用者の皆さまに寄り添った取組みを実施しております。
- ・ 保障の加入にあたり、共済掛金の他に組合員・利用者の皆さまに手数料等のご負担いただいております。

I.取組状況

3 利益相反の適切な管理 【原則3本文および（注）】

当組合は、組合員・利用者の皆さまの商品選定、保障提案にかかる情報提供にあたり、金融商品の販売・推奨や共済仕組みの提案・契約等において、皆さまの利益を不当に害することがないように、「利益相反管理方針」等を定め、本方針等に基づき適切に管理します。

4 組合員・利用者本位の業務運営を実現するための人材の育成と態勢の構築 【原則2本文および（注）、原則6（注5）原則7本文および（注）】

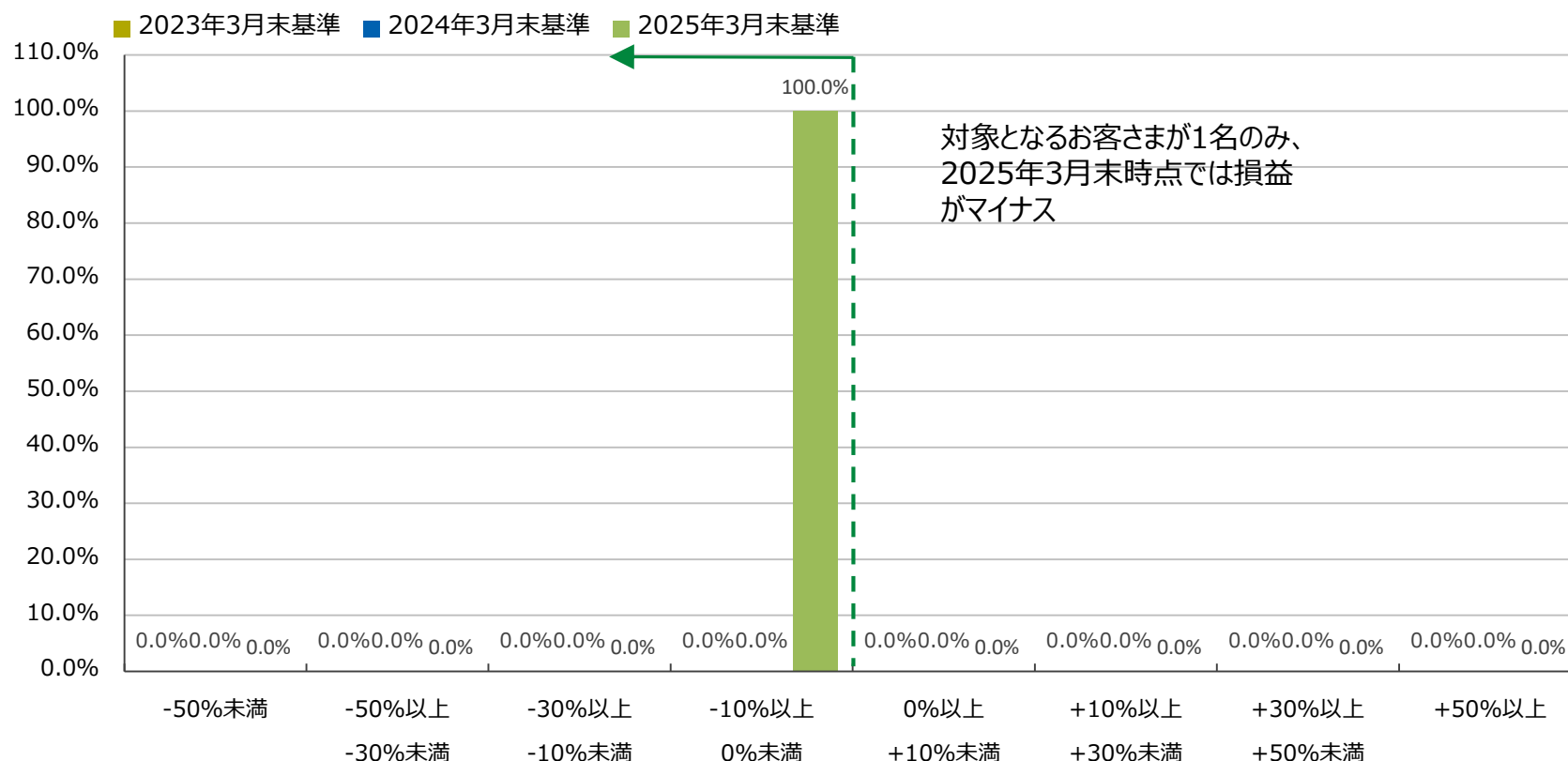
・当組合は、組合員・利用者の皆さまの信頼を獲得し、皆さまの「困った」に対応する各種相談機能を提供いたします。皆さまに満足していただける金融商品・共済仕組み・サービスを提供できるよう、職員の継続的・定期的な研修を実施するとともに、組合員・利用者の皆さまの多様な資産運用や保障ニーズに応え、的確な金融商品・保障・サービスを提供、堅確な事務を行うため、資格取得の支援等に取り組んでおります。（取得を推奨する外部資格：宅地建物取引士、FP2級技能士・AFP、証券外務員1種・2種、内部管理責任者試験、金融AMLオフィサー、コンプライアンス・オフィサー、個人情報保護オフィサー）

・組合員・利用者の皆さまから、本支店窓口のご利用時や渉外担当者等の訪問時、地域座談会や組合員説明会、経営内容説明会等の場面などでお寄せいただいた「声（お問い合わせ・ご相談、ご要望、苦情など）」を誠実に受け止め、業務改善に取り組むとともに、組合員・利用者の皆さまに対して、最適な金融商品、共済仕組み・サービスを提供できるよう、継続的に職員育成を行う態勢を構築します。

Ⅱ.比較可能な共通 K P I

1 運用損益別顧客比率（投資信託）

- 「運用損益別顧客比率」は、2024年10月より取扱開始し、組合員・利用者の皆様へ長期・分散投資やつみたて投資をご提案しましたが、2025年3月末時点ではご利用者1名に留まり、該当のお客様の損益はマイナスとなりました。

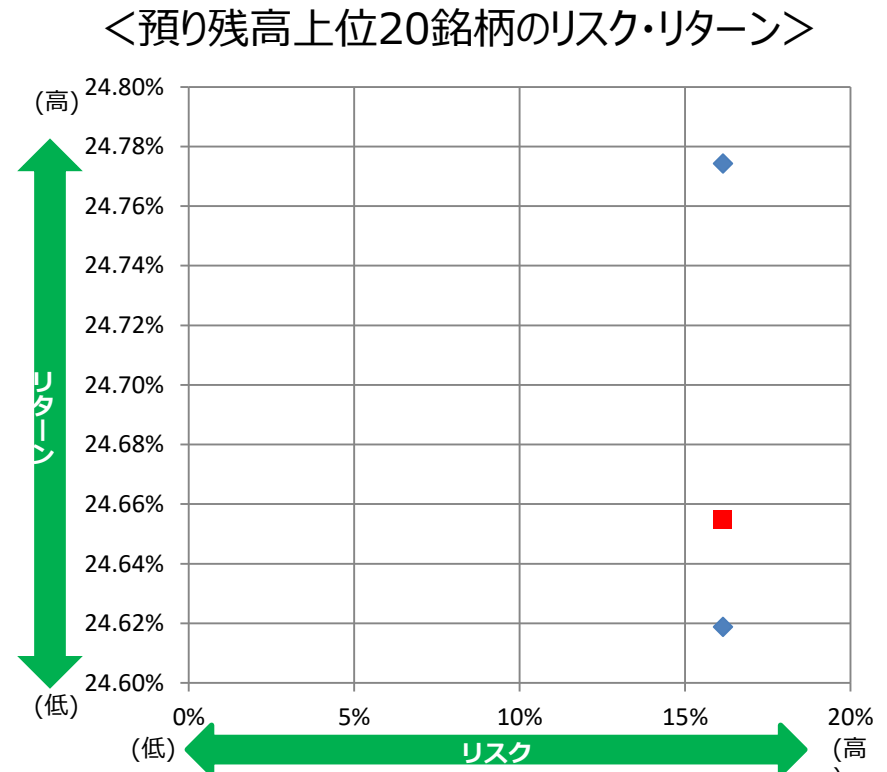
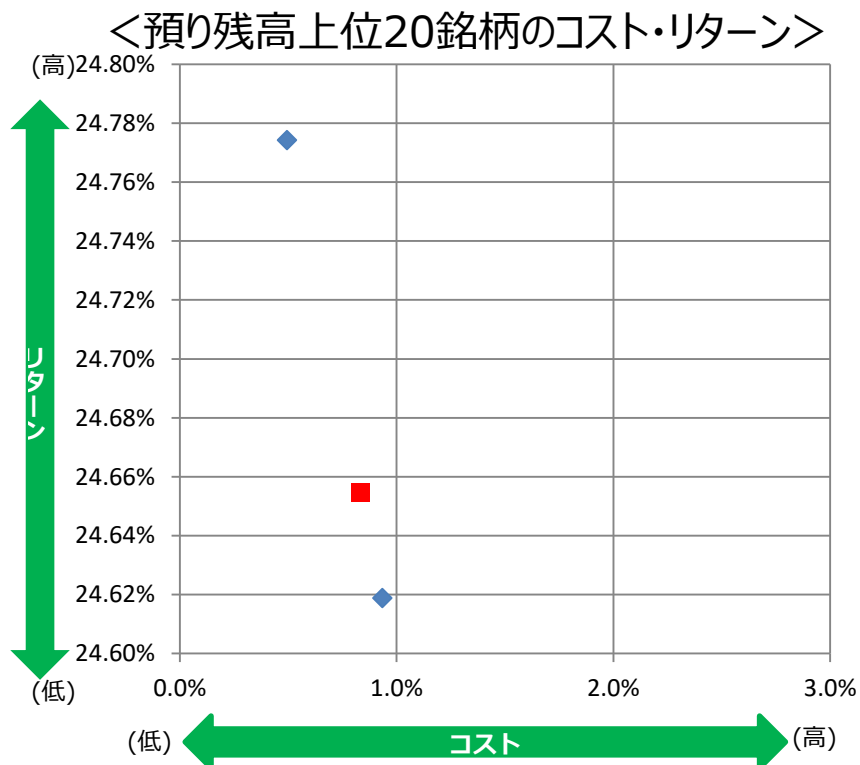


※2024年度取扱開始のため、2022・2023年度の実績はありません。

Ⅱ.比較可能な共通 K P I

2 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン（2025年3月末）

- ・ J Aバンクでは、取扱うファンドの運用実績を組合員・利用者本位の業務運営の観点に基づきチェックし、運用実績が優良なファンドを選定しております。
- ・ 2025年3月末時点の預り残高上位20銘柄の平均コスト0.83%、平均リスク16.15%に対して、平均リターンは24.65%でした。



※ 各ファンドのコスト・リスク・リターンは、次のページに記載しております。

※ 赤い点は平均値を示しています。

※ 2024年度取扱開始のため、2022・2023年度の実績はありません。

Ⅱ.比較可能な共通 K P I

3 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン（2025年3月末）

	ファンド名	運用会社	リターン (年率)	リスク (年率)	コスト 全体
1	米国株式 S&P500インデックスファンド	農林中金全共連アセットマネジメント（株）	24.62%	16.15%	0.94%
2	つみたて米国株式 S & P 5 0 0	農林中金全共連アセットマネジメント（株）	24.77%	16.16%	0.50%
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	残高上位20ファンドの残高合計／残高加重平均値		24.65%	16.15%	0.83%

※ 2025年3月末基準時点における共通 K P I の対象となるファンド数は2本となります。

※ 当指標は、設立から5年が経過したファンドを対象として、リターン・リスク・コストを算出して表示しております。